

令和2年1月21日

# 寺津小学校だより

天童市立寺津小学校長 大沼 英記

## 「自分ごととして考える」

例年になく、雪の少ない冬を過ごしています。地域や保護者の皆様には、これまでの学校へのご協力に感謝申し上げますとともに、今年も多くのご支援を賜るようお願い申し上げます。

1月7日から令和2年の学校が始まりました。初日、74名全員登校できたので体育館で職員も全員で写真を撮ったところです。子ども一人一人を大切に、学力向上に丁寧に取り組んでまいります。



「今年もよろしくお願いたします！」

### 2月のおもな予定

○2/ 3 (月) 入学児童1日入学 牛乳パック回収の週	○2/ 15 (土) 授業参観 PTA全体会 学級懇談会
○2/ 4 (火) 朝会 通学班長会	○2/17 (月) 授業参観等振替休業日
○2/ 5 (水) 第2回学校評議員会	○2/19 (火) 6年生三中校歌指導
○2/ 6 (木) 6年生ストレスマネジメント講座 安全点検	○2/23 (日) 天皇誕生日
○2/ 7 (金) 4年生三郷堰100周年除幕式参加	○2/24 (月) 天皇誕生日振替休日
○2/ 10 (月) ICT支援員来校 代表委員会	○2/25 (火) 感謝の会 通学班長会
○2/ 11 (火) 建国記念の日	○2/26 (水) まいづる号来校 代表委員会 市PTA連合会小中高PTA 会長交流会
○2/ 12 (水) 朝会 まいづる号来校 委員会活動	○2/27 (木) 安全点検
○2/ 13 (木) 通学班会	○2/28 (金) 高学年ネットモラル研修会
○2/ 14 (金) なかよし親子学習会	

## ～ 高学年の学びから お知らせです～

本校の1月～3月は「感謝の季節」です。これまでの学習をまとめながら、関わっていただいた多くの「人・もの・こと」に感謝しながら学んでいます。

学校アンケートに見られるように、保護者の皆様が子どもたちについてほしい資質のトップが「自分考えをはっきり言える表現力」でした。そのことを受け、本校では、IN PUT の学びをOUT PUT して表現する学習活動を意図的に設け、取り組んでいます。カリキュラムをマネジメントしながら、子ども達が本物（学校外など）の社会で自分たちの学びを実践してみることが、子ども自身の成長につながると考えています。

### 【5年生の取組み】

5年生は、3Dプリンターを使って何か「OUT PUT」できないか考えました。寺津沼の環境調査などもしています。また、最近の台風などの自然災害なども心配になり、新しくなった市の洪水ハザードマップを見て、実際に寺津地区を3Dプリンターで製作し、水がどのように流れるのかシュミレーションに取り組んできました。1月26日（日）13:00～から霞城セントラル内の山形県産業科学館で開催される山形の未来を担う人材育成事業「3Dプリンター活用アイデアコンテスト」で発表することになりました。送迎など保護者の皆様には、多大なるご協力をいただいたおかげで参加できます。ありがとうございます。



【発表に向けての準備】

### 【6年生の取組み】

6年生は今年取り組んできた「6年1組農業部」の取り組みをネギ農家の清水寅さんにご指導いただきながら、修学旅行で作った作物を販売するという「OUT PUT」までつなげました。「IN PUT」の体験活動は、多くの学校でも取り組んでいますが、「OUT PUT」まで行うことに興味をもっていたいただいたテレビ局からの継続した取材をもとに、2月10日（月）19:00からYTSで「Do You 農？」という番組で放送されます。子ども達の学びを是非ご覧ください。

## ～新年を迎えて～

新年を迎えた初めの朝会で2つのことについて話をしました。

一つ目が、「Society5.0」についてです。これは、狩猟社会から始まり農耕社会、工業社会、情報社会と4つの社会のあとに来る社会のことを指します。「未来の日本の姿」というYouTubeを見た後に、これからの私たち人間に必要とされる資質・能力は何か尋ねました。6年生の向田莉子さんは「判断し選択する力」と言い、瀬野祐有さんは「よく考える力」と発言してくれました。本校の教育目標は「あかるく かしこく たくましい 子どもの育成」です。めざす子ども像に二人の考えも取り入れ、来年度につなげていきたいと考えています。

二つ目は、学校の敷地にある「やまつつじ」についてです。種を持ち帰ってよいことにしたのでご家庭に持ち帰った子もいると思います。上に投げ上げるとくるくる回りながら落ちること、自分の木の近くに落ちた種は発芽しないこと、寒さを経験しないと発芽しないことを語りながら自然の進化の一端を伝え、私たちも自然の一部なのだということを話しました。

駐日大使だったライシャワー氏が「もう一つの日本」として紹介した山形。自然との共生は、ここに暮らすものとして忘れてはならないものだと考えています。